

奈良県立民俗博物館の資料、どう保存 有識者委が初会合

2024/11/18 19:04 日本経済新聞電子版 446文字

奈良県は18日、県立民俗博物館（休館中、大和郡山市）の資料収集・保存方針について検討する有識者委員会の初会合を開いた。会合では県が館の現状報告をしたほか、方針の骨子案などを示した。博物館の収蔵スペースの不足問題が全国で課題となるなか、委員長に就いた日高真吾・国立民族学博物館教授（保存科学）は「どういう風に解決していくのか。プロセスを丁寧に発信していきたい」と述べた。

委員会は5人のメンバーで構成し、非公開で約2時間開かれた。同博物館の資料を巡っては、山下真知事が明確なルールを決めたうえでの廃棄処分の検討について言及していた。会合後の記者会見で日高委員長は「除籍は最後にやること。除籍にならないように何をするのかしっかりと議論したうえで、最後の除籍という問題になる」と説明した。

同博物館は約4万5000点の資料を収蔵し、県立としては全国でも最大規模になる。日高委員長は、「グローバル化が進んで地域性が見えなくなっているなかで、民俗博物館は、奈良の顔が表現できる可能性を持っている」と期待した。



委員会後に記者会見する日高委員長（中央）ら（18日、奈良市）

【関連記事】

- ・奈良県、民俗資料を3Dデジタル保存へ 約4万5000点
- ・歴史資料を守り伝える意義・方法を考える 歴博で展覧会
- ・民俗学は役に立つ？ 博物館に眠る「民具」の活用力ギ